

創造的芸術活動を通してコロナ禍を乗り越えましょう

洋画部長 塚田 稔

新型コロナ・ウイルスの流行に引き続いてオミクロン変異株の流行となり厳しい社会情勢が続いています。昨年度日府展本展、並びに秋の洋画部展の開催の中止を余儀なくされ、オンライン開催による代行を実施してまいりました。このような状況を補うため、本展、洋画部展の作品の評価とアドバイスを日府展の外部評価委員の中野中先生、ギャラリートークの篠原一成先生にお願いし、それを洋画部だよりに掲載して会員各位に届けることにしました。参考にさせていただきたいと思っております。

展覧会は何といても会場の雰囲気や作品が醸し出す場の雰囲気は芸術の最重要事項と考えますが、画像情報だけでもオンラインでできたことはよかったです。この実施にあたりご協力をいただいた皆様に感謝いたします。今年度こそは都美術館の開催ができることを願

っています。それに向け会員皆様の意欲ある作品を期待したいと思います。

さて、例年の新年会の開催や2月の研究会もリアル開催できないことを踏まえ、今年度の洋画部の役割分担を考えてみました。

上野・都美館本展、また洋画部展（ギャラリーくぼた）を開催するためには会員各位の協力なくしてはできないことであり今年も宜しくお願いたします。

芸術はこの厳しい状況乗り越えるための手段として、生きがいや意欲を駆り立てる創造的仕事であり会員皆様の創作活動を期待するとともに、このコロナ禍を共に乗り越えましょう。



2月の作品研究会

2月16日(水)14時からオンラインで行います。

2月12日(土)までに、作品の画像ファイルまたは

印画写真を山本英雄参事にお届けください。詳細は裏面を参照。

外部評論家による洋画部作品講評

美術評論家 中野中先生

68回日府展東京オンライン展

昨年の中止に続き、68回日府展東京展は審査を終えて展示を待つだけの段階で急遽中止のやむなきに至ったために、審査での印象を図録で捕捉しながらの寸感にとどめる。

塚田稔は常にコンテンポラリーの状況をモチーフに明確な構成と明快な配色により、奥行きのあるメッセージを発信。悩み煩悶するラフがイメージを深めた。佐藤勝昭はプラハ2点、時計台の作品は焦点を絞り、時の流れ、歴史の重さへの思いを浮かび上がらせた。松林節男の2点は朱赤から黄、緑から青を持ち色とし、目に鮮烈。「青い夏へ帰る」はらねる曲線がつくるムーヴマン構成が印象的だった。石井泰代は透明感ある彩調が美しい。幻想とロマンの世界に惹かれる。吉田馨都江は盛りの賑いを画面いっぱいに積溢させ、定型に取りまらない個性的魅力を持つ。和知亜通支は画面をほぼ二分する大胆な構成を、陽光いっぱいに輝かせる色彩と左端の斜線でまとめ上げた。宮澤賢一は金地に白赤一対の瞬は堂々とあでやか。衣装の描写も確か。前澤龍一は直線に曲線で巧みな構成の中に、渋い赤の車両に情感を収斂させる。宮田益栄は白黒の景に色づく効用を精彩ある筆致で的確に描写。斉藤正博のかすむ木立を背柔らかな陽を浴びて立つ「帰省の子」に存分な愛しさを注ぎ、心ぬくもる作品。須賀光子の奥入瀬の深まり行く姿を丹念に筆致で 小川桂子は「裏山の紅葉」を大づかみして燃え立たせた。あるいは増田紀之の実・虚を逆転した湖面の抒情も秋の深まりを湛える。高橋ゆみ子の幻想、田中和美の春愁、越後早季の壮大な視点にも目を留めた。

受賞作から

佐々木裕子のズバリ「生命」の賛歌、村岡靖彦の笑顔の並ぶ友への信頼、正路ユキの幸せ溢れる赤と白、飯島百合子だけの描法、大井田敏江の母子の表情、西川勝正の楚々とした香り、野母明美の内なる強さ、そして、高平小百合の「信頼」など印象に残った。

皆さんの作品を来年こそ会場で楽しみたい思いしきりである。

秋季洋画部オンライン展

小川明「果物」青い卓上の果物四つの彩りが狙いか、力作。長谷川順子 柔らかな曲線と配色に独自性。暑い陽射しを思う。山本英雄「上高地の川」山の表情がいい。整理された構成、色彩も行き届いている。橋本志津江「廢屋」を真正面から正攻法でとらえ、銜いなく味がある。鮫島俊英、堂々とした風車の巨大さを生かした景とした。緑の中の橋の白、屋根の赤が生きている。森田新子、花を中心に華やかな色合いに壺の濃さと形がバランス良く釣り合う。カーテンが効果的。向井和子、本展で花の絵で新人賞受賞。水彩画。率直な描写はアンティームで瑞々しい。安島典子「舞台」は設定に工夫があって興深く見た。他に女性像と静物の3点出品。江幡肇、2点出品。赤白の大胆な色合いがパリ島土着のエネルギーを出した。高平小百合「ソファーにくつろぐ婦人と犬」情感豊かに描いた。

アールライター 篠原一成先生

68回日府展東京オンライン展

コロナ禍、緊急事態宣言下、都美術館閉館。この悪循環の煽りを受けた美術公募団体は数多い。日府展もその一つで、昨年67回展は中止、今年は審査も終え展示を待つばかりであったが、ウイルスの侵攻には勝てなかった。しかし作家の分身である作品たちは確実に出番を待っているわけで、どんな形であれ世に公開することは公募団体の使命でもある。その点、日府展はすぐさまオンライン展示に切り替えた。この事実は大いに評価したい。同時にこれからの美術文化発信の範疇を考えるきっかけにもなったであろう。もちろんバーチャルの世界を第一にというわけでは決してない。リアルに勝るものはない。双方をいかに抱き合わせるか。年齢を問わず、場所を左右されず、時間に縛られず、と考えるとオンライン上の作品群はリアル展示より遥かに人の目に触れるだろう。そこにモチベーションが生まれるならば自ずと展示現場に足が向くのではないだろうか。こういう取り組みを公募団体展が柔軟に取り入れることが重要なのであり、そこに公募美術展の未来の一端があるように思われる。

日府展の中でも近年の洋画部の活性化は著しい。作風も多様で、作者の思いが存分に籠った画面の数々には清々しささえも漂わせている。会によっては偏ったイデオロギーに踏襲され、技術はそこそこのレベルを保っているが何の面白みもない壁面を呈しているところもある。その点、日府展洋画部の作品はかなりハイレベルの仕上がりが見せている作から、まだまだ未開の作まで力量に幅があるも、作者が描こうとする目的意識にぶれがなく、そこに注がれた情熱が巧拙を超えて見る者に迫ってくることに好感が持てる。

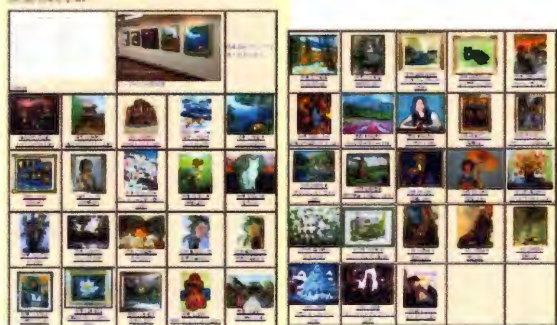
今回展は残念ながら実作を見ることができず、オンライン上と図録に頼るしかなかったが、おおよその実態を知ることはできた。

塚田稔洋画部長の150号大作に見る時世への思いや、佐藤勝昭100号2点の深い画面構築などを筆頭に、幹部作家が自らのテーマを更に掘り下げて作画の神髄に迫ろうとする。一方、宮澤賢一のように新しいテーマを見据えて、果敢に挑戦した労作も見ることができる。また復活してきた清水孝の強烈な主張や新人賞を受賞した高平小百合、野母明美の新進の風にも期待が寄せられる。今後の展開次第では人に進化した画面を見せてくれるだろう。来たる69回展は平時の元、リアルとバーチャル双方に日府展の花が満開になることを思い描いて筆をおく。



2021年秋季洋画部オンライン展

恒例の秋季洋画部展、2021年9月6日(月)～12日(日)、ギャラリーくぼたでの開催を予定していましたが、新型コロナ・ウイルス感染症緊急事態宣言が延長されたため、急遽中止、ホームページでのオンライン展示となりました。



2021年洋画部スケッチ旅行中止

洋画部スケッチ旅行を2021年10月17日～19日に伊豆・熱海方面で行うことが予定されていましたが、コロナの緊急事態宣言などのため参加者が少なかったため、中止することとなりました。
企画・準備していただいた佐々木裕子参事のご努力に感謝します。

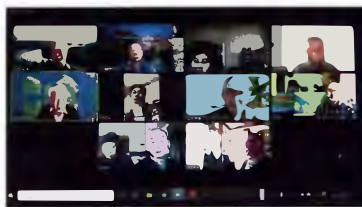
2022年洋画部作品研究会

恒例の洋画部研究会。新型コロナ・ウイルス・オミクロン株のまん延を考慮し、昨年に続き今年もオンライン開催とします。

- 1) 日時 : 2022年2月16日(水) 14:00より
山本英雄参事のアレンジでZOOM方式で開催
- 2) 研究対象: 作品候補、エスキース、構想、写真など
出品心積りの作品候補を研究する
- 3) 参加方法: 2月12日(土)までに山本様にメールで参加を申し込む
研究対象はメールまたは郵送で山本先生に送付する

69回日府展に出品予定で制作中の作品、あるいは、そのためのエスキースなどを持ち寄り相互批評を行います。作品をZOOM画面で共有するために、作品の画像ファイルをメール添付で担当の山本先生までお送りください。または、印刷した写真を山本さんの住所へ郵送してください。
なお、ZOOMへのアクセス法は、当日までにメールでお知らせします。

e-mail: hideo.yamamoto@jcom.zaq.ne.jp
郵送先: 252-0222 相模原市中央区由野台1-10-7 山本英雄



昨年の作品研究会のZOOM画面

洋画部 2022年年間行事計画表

日時	行事名	場所	備考	主担当	
2月16日(水) 14:00	洋画部作品研究会	オンライン	第69回展に向け制作中の作品を互評画像ファイル 2/12迄 山本へ	山本・塚田	
3月1日～31日	69回展出品申込受付	日府会館			
3月4日(金)	ジュニア展申込書受付	日府会館		大野	
3月28日～31日	ジュニア展作品受付	日府会館		大野/Jr担当者	
3月31日(木) 17:00	69回展出品申込期限	日府会館	図録データ作成のため提出期限厳守	山本・宮澤	
4月3日(日) 3:00	日本画定期総会	日府会館	2021年度事業報告、決算報告、2022年度事業計画	本部	
4月6日(水) 14:00	第1回図録編集委	オンライン	出品者名簿確認	山本・宮澤	
4月中旬	ジュニア作品写真撮影	写真スタジオ		大野/Jr担当者	
5月5日(木) 10-13 10-17:30	69回展作品搬入 作品写真撮影	都美術館	搬入作品受付+初日諸作業 図録、目録データ補充	服部 山本・宮澤	
5月6日(金) 10-15	69回展作品審査	都美術館	作品審査および入選発表、名古屋展出品選別、図録・目録原稿確定入稿	審査員 佐藤・塚田	
5月12日(木) 10:00	第2回図録編集委	KB社?	図録最終データ	山本・宮澤	
5月19日～27日 10-18	69回日府展開催	都美術館	受付・事務所・会場・図録販売の当番(初日13時開場、最終日14時半礼止・15時半閉会)	多数	
5月19日(木)	9:30	会場飾付	都美術館	全員で作品運搬・陳列	塚田・佐藤・小室
	14:00	ギャラリートーク	洋画部展示室	篠原先生に講評依頼	塚田・服部
	17:30	69回日府展表彰式	ラ・ミュージ	(会費10,000円チケット前売り)	吉田・石井
5月23日(日)	14:00	市民講座	都美術館講堂	脳科学と材料科学から絵画を読み解く	塚田・佐藤
	16:00	洋画部総会	都美術館講堂		服部
未定	洋画部懇親会	未定	コロナの終息状況による	塚田	
5月27日(金) 15:30	69回展閉会・搬出撤収	都美術館	全員で撤収作業	多数	
5月28日(土) 10-14	東京展搬出	都美術館	事業部立ち会い	塚田・服部	
6月7日(火) 13:00	名古屋展搬入展示	愛知県美術館	作業協力者若干名	別途	
6月8日(水)	名古屋展初日	愛知県美術館	祝賀会は中止		
6月8日～12日	名古屋展	愛知県美術館			
9月5日(月)～11日(日)	秋季洋画部展	ギャラリーくぼた		服部/洋画部展担当	
10～12月	洋画部スケッチ旅行			松林	

洋画部 2022年度役割分担

洋画部役員

部長	塚田 稔
部長代行	佐藤勝昭
顧問	小室禮子
総務	服部尚彦
事業	吉田馨都江
ジュニア展	大野雅生・高橋ゆみ子・飯島百合子
研究	斎藤正博
出版	山本英雄
会計	田中和美
監査	和知重津支

69回日府展東京展

搬入事務	佐藤、服部、浦野
図録データ	山本、宮澤
作品整理	前澤、宮田、和知、村岡、飯島他
写真撮影	山本、宮澤、小川(明)
審査	塚田、小室、佐藤、斎藤、松林
審査結果整理	橋口、高橋、飯島
入選通知発送	橋口、高橋、飯島
図録データ確定	山本、宮澤
初日作業	全員
作品陳列	塚田、佐藤、小室
(手伝い)	全員
図録仕分け	山本、小川(明)、小川(佳)、田中
レセプション	吉田、小河(佳)、高橋、飯島
会場/事務室当番	吉田、高橋
図録配布	山本、宮澤、他会員有志
図録送付	村岡、前澤
市民講座	山本、服部、浦野、村岡
洋画部総会	服部(司会)
最終日撤収	全員
図録発送	山本、宮澤、小川(明)、小川(佳)

日府展名古屋展

搬入・飾付 塚田 小川(明) 小川(佳) 佐藤 飯島

秋季洋画部展

責任者 服部、石井、山本、宮澤、橋口、高橋
飯島、村岡

秋季洋画部スケッチ旅行

責任者 松林(代表)、佐々木、浦野

洋画部会・新年会

幹事 服部

2023年2月作品研究会

幹事 斎藤(代表)、吉田、宮田

藤原慶子さんを悼む

石井泰代



洋画部に長年貢献されてきた藤原慶子さんが、昨年十一月に逝去されました。ご自身の精力的な画業の傍、ご自宅のアトリエで画塾を主宰され、お弟子さんの何人かが日府展の会員となり活躍されてもおります。藤原さんのそのダイナミックで躍動的な線や面で構成された作品は、個性あふれる日府展の作品群の中でも圧倒的な存在感を放っていました。おらから温かな眼差しはお弟子さん達にも

注がれていたようで、病気がちだったここ数年、画友の個展やグループ展に訪れる時はいつも、お弟子さんの数人が大事に車イスの藤原さんを護るように囲み、皆で静かに作品を鑑賞されていた姿が思い出されます。同窓生で同期の私の個展にも必ずお弟子さんたちと訪れておりました。あのエネルギーに満ちた独特な世界観を放つ作品が、そしてそのお姿が、もう見られなくなるのは寂しいかぎりですがなんだかいつか大空いっぱい雲で大きな絵を描いてくれそうな気がします。

合掌